

福島工業高等専門学校				ビジネスコミュニケーション学 専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）				開講年度		平成29年度（2017年度）						
学科到達目標																
科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数								担当教員	履修上の区分	
						専1年				専2年						
						前		後		前		後				
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q									
一般	選択	SDG s 探究	0001	学修単位	2	2									笠井 哲	
一般	選択必修	現代英語Ⅰ	0002	学修単位	2	2									宮澤 泰彦 上野代 明子	
一般	選択必修	現代英語Ⅱ	0003	学修単位	2			2							宮澤 泰彦 上野代 明子 新任 教員	
一般	選択	日本文化論	0004	学修単位	2	2									高橋 宏宣	
一般	選択	グローバル研修	0005	学修単位	1	集中講義									上野代 明子	
専門	必修	特別研究Ⅰ	0011	学修単位	6	8		10							湯川 崇 原田 正光	
専門	必修	経営学演習	0012	学修単位	2	4									芥川 一則 湯川 崇 村松 浩一 江田 潤 義英 杉山 武史 若林 晃央 安部 智博 渡邊 工リカ	
専門	必修	新事業開発	0013	学修単位	2	2									湯川 崇 大川 信一	
専門	必修	生産管理論	0014	学修単位	2	2									杉山 武史	
専門	必修	経営管理論	0015	学修単位	2			2							芥川 一則 栗林 利紗	
専門	必修	データ分析論	0016	学修単位	2	2									湯川 崇	
専門	必修	財務諸表論	0017	学修単位	2	2									安部 智博	
専門	必修	広告メディア論	0018	学修単位	2	2									湯川 崇 松田 拓	
専門	必修	インターンシップA	0019	学修単位	2	集中講義									原田 正光 湯川 崇	
専門	選択	インターンシップB	0020	学修単位	2	集中講義									原田 正光 湯川 崇	
専門関連	必修	システムデザイン	0006	学修単位	2	2		4							鄭 耀陽 小出 瑞康 鈴木 晴彦 植 英規 梅澤 洋史 齊藤 充弘 高荒 智子 芥川 一則 若林 晃央 森 崇理	

専門 関連	必修	産業財産権	0007	学修 単位	2	2							植 英規 小松 道男	
専門 関連	必修	産業技術論	0008	学修 単位	2			2					鄭 耀陽 植 英規 柴 公彦 田 正光 原田 一則 芥川	
専門 関連	選択	環境保全工学	0009	学修 単位	2	2							押手 茂 克,原 田 正光	
専門 関連	選択	現代化学	0010	学修 単位	2	2							酒巻 健 司	
一般	選択 必修	現代英語Ⅲ	0021	学修 単位	2					2			本田 崇 洋	
一般	選択	グローバル研修	0022	学修 単位	1					集中講義			高野 克 宏	
専門	必修	特別研究Ⅱ	0030	学修 単位	8					12		12	齊藤 充 弘,湯 川 崇	
専門	必修	グローバル経営論	0031	学修 単位	2					2			芥川 一 則,栗 林 利紗	
専門	必修	経営分析論	0032	学修 単位	2							2	安部 智 博	
専門	選択	情報科学論	0033	学修 単位	2							2	小泉 康 一	
専門	選択	システム論	0034	学修 単位	2							2	大槻 正 伸	
専門	必修	インターンシップA	0035	学修 単位	2					集中講義			齊藤 充 弘,湯 川 崇	
専門	選択	インターンシップB	0036	学修 単位	2					集中講義			齊藤 充 弘,湯 川 崇	
専門	選択	インターンシップC	0037	学修 単位	2					集中講義			齊藤 充 弘,湯 川 崇	
専門 関連	必修	製品開発論	0023	学修 単位	2							2	芳賀 宏 一郎,湯 川 崇	
専門 関連	必修	経済産業論	0024	学修 単位	2					2			芥川 一 則	
専門 関連	必修	都市経済学	0025	学修 単位	2							2	芥川 一 則	
専門 関連	選択	ビジネス英語	0026	学修 単位	2							2	渡邊 エ リカ	
専門 関連	選択	減災工学	0027	学修 単位	2					2			緑川 猛 彦,原 田 正光 齊藤 充弘 菊地 卓郎 高荒 智子 金 高 三義 浦 拓也	
専門 関連	選択	産業安全工学総論	0028	学修 単位	2							2	芥川 一 則,原 田 正光 大槻 正伸	
専門 関連	選択	科学技術史	0029	学修 単位	2					2			笠井 哲	

福島工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	SDG s 探究
科目基礎情報					
科目番号	0001		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	SDGsを考える、高井亨・甲田紫乃、ナカニシヤ出版 / 工学系卒論の書き方、別府俊幸・渡辺賢治、コロナ社				
担当教員	笠井 哲				
到達目標					
①講義を通して、SDGs(持続可能な開発目標)の基礎事項について十分に理解することができる。 ②各人の将来の職業（エンジニアやビジネスマン）との関連で、SDGsを理解し目標達成を目指すことができる。 ③グループディスカッションを通して、専門職業人に必要なSDGs達成に関する判断力を身につけることができる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
基礎的能力	SDGsを取り巻く歴史と現在の状況について理解しており、自分の言葉で説明できる。		SDGsを取り巻く歴史と現在の状況について、理解している。		SDGsを取り巻く歴史と現在の状況について、理解していない。
専門的能力	SDGs達成のための自然・技術・人間のあり方とSDGs達成のための経営について理解しており、自分の言葉で説明できる。		SDGs達成のための自然・技術・人間のあり方とSDGs達成のための経営について、理解している。		SDGs達成のための自然・技術・人間のあり方とSDGs達成のための経営について、理解していない。
汎用的技能	グループディスカッションを通して、社会人として十分なコミュニケーションスキルを身につけることができる。		グループディスカッションを通して、社会人として必要なコミュニケーションスキルを身につけることができる。		グループディスカッションを通して、社会人として必要なコミュニケーションスキルを身につけることができていない。
態度・志向性	グループディスカッションを通して、チームワーク力に加えて、社会人として十分な主体性や責任感を身につけることができる。		グループディスカッションを通して、チームワーク力に加えて、社会人として必要な主体性や責任感を身につけることができる。		グループディスカッションを通して、チームワーク力に加えて、社会人として必要な主体性や責任感を身につけることができていない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	将来、専門職業人として求められるSDGsの基礎事項を学び、各人の将来の職業との関連で、SDGsを理解し目標達成を目指すことができるように学ぶ。 さらに、うわべだけ熱心に見せる「SDGsウォッシュ」に陥らぬよう、自分の問題として取り組むためグループディスカッションを行い、自分の意見を発表する。				
授業の進め方・方法	まず、SDGsの形成過程からその存在理由を理解し、SDGsを取り巻く歴史と現在の状況について学習する。 次に、SDGs達成のための自然・技術・人間のあり方とSDGs達成のための経営について、各自の専門分野に沿って学習する。 さらに、グループディスカッションでは、チームワーク力、コミュニケーションスキル、主体性、責任感を磨くとともに、背景（出身学科）の異なる人たちとも対話ができるようにする。 定期試験（期末のみ）を実施し、グループディスカッションやレポートと総合的に評価し、60点以上を合格とする。ただし、再試験の受験は定められた期限内に課題を提出した者のみに認める。 この科目は学修単位科目のため、授業の前に配付された課題プリントを調べ、授業の後に授業内容をまとめて提出する。				
注意点	グループディスカッションは、いわばロールプレイであるが、実際に自分自身の問題であると考え、積極的に参加すること。 課題は日本だけでなく、海外のものも検討する。その際、英文を読解するので、英和辞典を用意すること。 定期試験の成績を60%、グループディスカッションへの参加状況を20%、自学自習課題の達成状況を20%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。プレゼンテーションは単位認定の要件とする。				
授業の属性・履修上の区分					
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	SDGsとは何か	SDG s の存在理由を理解する。	
		2週	歴史から見た経済と環境開発	エネルギーと工業化を考える。	
		3週	SDGsの来た道	MDGsとSDGs の目標を比較する。	
		4週	世界は持続可能か	統合指標という枠組みを理解する。	
		5週	SDGs達成のための自然・技術・人間	技術者として何ができるかを考える。	
		6週	持続的な自然と物理法則	機械万能の世界観の功罪を考える。	
		7週	持続可能なエネルギー供給	バイオマスと水素エネルギーを理解する。	
		8週	持続可能な土壌資源	土壌資源の管理を考える。	
	2ndQ	9週	変動帯としての日本	日本人の生き方を考える。	
		10週	活動に於ける関係性	パートナーシップのあり方を理解する。	
		11週	SDGs達成のための経営	消費者と企業が共に歩む社会を考える。	
		12週	SDGsとマーケティング	CSR（企業の社会的責任）とCSV（共通価値創造）を理解する。	
		13週	グローバル市場における消費と生産	SPA（製造小売業）の登場とグローバル化を理解する。	

		14週	SDGsウォッシュとは何か	ストーリー戦略を考える。	
		15週	まとめ—SDGsを考える—	歴史・環境・経営の観点から考える。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	課題レポート	グループディスカッション	合計	
総合評価割合	60	20	20	100	
基礎的能力	30	10	0	40	
専門的能力	30	10	0	40	
汎用的技能	0	0	10	10	
態度・志向性	0	0	10	10	

福島工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	現代英語 I	
科目基礎情報							
科目番号	0002		科目区分		一般 / 選択必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	CLIL Primary SDGs (三修社)						
担当教員	宮澤 泰彦,上野代 明子						
到達目標							
"持続可能な社会"をつくる技術者となるために、世界共通の課題であるSDG s について英語で学び、興味のあるトピックについて掘り下げて調べ、情報交換・発信ができるようになる。現代英語 I II IIIを通して、2冊のSDGsにフォーカスを絞った教科書を使い、倫理観を養いながら、かつ実践的な英語力を高める。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		SDGsをトピックとした話題について、英語で情報収集でき、まとめて発表することができる。Targetについて理解している。		SDGsをトピックとした話題について、英語で情報収集でき、まとめてエッセイを書くことができる。Target について一定の理解がある。		SDGsをトピックとした話題について、英語で情報収集できるが、自分の意見を英語でまとめることができない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		この授業では、SDG s のゴールだけではなくターゲットまで踏み込み、英語による情報収集ができる。SDGsをフレームワークとして、現実社会の問題発見解決ができる視野と視座を身に着ける。と同時に、英語による情報発信能力や情報収集能力を養う。また、英語による効果的なグラフや図形をつあった効果的なプレゼンテーションの作り方の基礎を身に着ける。					
授業の進め方・方法		教科書をベースに進める。教科書の中のタスクについて、特に力をいれる。グループで英語による情報交換をする力を身に着ける。また、英語による効果的なグラフや図形をつあった効果的なプレゼンテーションの作り方の実践を通して学ぶ。 定期試験は50分の試験を実施する。定期試験の成績を60%、平素の成績（課題やプレゼンテーション演習）を40%として、総合的に評価し、60点以上を合格とする。					
注意点		教科書だけではなく、インターネットを駆使して最新のSDG s にかかわる社会問題を常に意識すること。多くのすぐれたプレゼンテーションを聞くこと。					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション・授業の進め方		SDG s ができた経緯、また一部のターゲットについて考える訓練をする。		
		2週	Unit 1 Live Together		例文を暗唱する 自分の意見を述べる 新しいアイコンを作り、クラスメイトに英語で説明する。 決まったトピックについてエッセイを書く。		
		3週	Unit 1 Live Together Unit 2 Create inclusive society		例文を暗唱する 自分の意見を述べる 新しいアイコンを作り、クラスメイトに英語で説明する。 決まったトピックについてエッセイを書く。		
		4週	Unit 2 Create inclusive society		例文を暗唱する 自分の意見を述べる 新しいアイコンを作り、クラスメイトに英語で説明する。 決まったトピックについてエッセイを書く。		
		5週	Unit 3 Think about food problem		例文を暗唱する 自分の意見を述べる 新しいアイコンを作り、クラスメイトに英語で説明する。 決まったトピックについてエッセイを書く。		
		6週	Unit 3 Think about food problem Unit4 Ensure quality education for all		例文を暗唱する 自分の意見を述べる 新しいアイコンを作り、クラスメイトに英語で説明する。 決まったトピックについてエッセイを書く。		
		7週	Unit4 Ensure quality education for all		例文を暗唱する 自分の意見を述べる 新しいアイコンを作り、クラスメイトに英語で説明する。 決まったトピックについてエッセイを書く。		

		8週	Unit 5 Ensure clean water and safe toilets	例文を暗唱する 自分の意見を述べる 新しいアイコンを作り、クラスメイトに英語で説明する。 決まったトピックについてエッセイを書く。
	2ndQ	9週	Unit 5 Ensure clean water and safe toilets Unit 6 Don's use plastic	例文を暗唱する 自分の意見を述べる 新しいアイコンを作り、クラスメイトに英語で説明する。 決まったトピックについてエッセイを書く。
		10週	Unit 6 Don's use plastic	例文を暗唱する 自分の意見を述べる 新しいアイコンを作り、クラスメイトに英語で説明する。 決まったトピックについてエッセイを書く。
		11週	Unit 7 Protect all living things	例文を暗唱する 自分の意見を述べる 新しいアイコンを作り、クラスメイトに英語で説明する。 決まったトピックについてエッセイを書く。
		12週	Unit 7 Protect all living things Unit 8 Build sustainable cities and communities	例文を暗唱する 自分の意見を述べる 新しいアイコンを作り、クラスメイトに英語で説明する。 決まったトピックについてエッセイを書く。
		13週	Unit 8 Build sustainable cities and communities	例文を暗唱する 自分の意見を述べる 新しいアイコンを作り、クラスメイトに英語で説明する。 決まったトピックについてエッセイを書く。
		14週	Unit 9 Secure electricity resources	例文を暗唱する 自分の意見を述べる 新しいアイコンを作り、クラスメイトに英語で説明する。 決まったトピックについてエッセイを書く。
		15週	期末試験	
		16週	期末試験の解説 Unit 9 Secure electricity resources の残り	最後の振り返り

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題・発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	授業貢献度	合計
総合評価割合	60	30	0	0	0	10	100
基礎的能力	60	30	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	現代英語Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0003		科目区分		一般 / 選択必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	CLIL Primary SDGs（三修社）CLIL SDGs（SANSHUSHA）*All English version						
担当教員	宮澤 泰彦,上野代 明子,新任 教員						
到達目標							
現代英語Ⅰでカバーできなかった部分を終え、ALLEnglishでSDGsについてより深い議論ができる英語能力を身に着ける。“持続可能な社会”をつくる技術者となるために、世界共通の課題であるSDGsについて英語で学び、興味のあるトピックについて掘り下げて調べ、情報交換・発信ができるようになる。現代英語ⅠⅡⅢを通して、2冊のSDGsにフォーカスを絞った教科書を使い、倫理観を養いながら、かつ実践的な英語力を高める。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		SDGsをトピックとした話題について、英語で情報収集でき、まとめて発表することができる。Targetについて理解している。		SDGsをトピックとした話題について、英語で情報収集でき、まとめてエッセイを書くことができる。Targetについて一定の理解がある。		SDGsをトピックとした話題について、英語で情報収集できるが、自分の意見を英語でまとめることができない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	この授業では、SDGsのゴールだけではなくターゲットまで踏み込み、英語による情報収集ができる。SDGsをフレームワークとして、現実社会の問題発見解決ができる視野と視座を身に着ける。と同時に、英語による情報発信能力や情報収集能力を養う。また、英語による効果的なグラフや図形を使った効果的なプレゼンテーションの作り方の基礎を身に着け						
授業の進め方・方法	教科書をベースに進める。教科書の中のタスクについて、特に力をいれる。グループで英語による情報交換をする力を身に着ける。また、英語による効果的なグラフや図形を使った効果的なプレゼンテーションの作り方の実践を通して学ぶ。定期試験は90分の試験を実施する。定期試験の成績を60%、平素の成績（課題）を40%として、総合的に評価し、60点以上を合格とする。						
注意点	教科書だけではなく、インターネットを駆使して最新のSDGsにかかわる社会問題を常に意識すること。多くのすぐれたプレゼンテーションを聞くこと。「エッセイ・プレゼンについて」エッセイは完成物をオンラインで共有しピアレビューを行う。ポスター・プレゼン発表が授業中に終わらない場合は、学修時間を使いオンラインでの発表とQ＆Aを行う。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Unit10 Promote good health and well-being		自分の意見を述べる 新しいアイコンを作り、クラスメイトに英語で説明する。 決まったトピックについてエッセイを書く。		
		2週	Unit10 Promote good health and well-being Unit 11 Live in an aging society		自分の意見を述べる 新しいアイコンを作り、クラスメイトに英語で説明する。 決まったトピックについてエッセイを書く。		
		3週	Unit 11 Live in an aging society		自分の意見を述べる 新しいアイコンを作り、クラスメイトに英語で説明する。 決まったトピックについてエッセイを書く。		
		4週	Unit 12 Promote our decent work		自分の意見を述べる 新しいアイコンを作り、クラスメイトに英語で説明する。 決まったトピックについてエッセイを書く。		
		5週	Unit 12 Promote our decent work Unit 13 Live well during climate change		自分の意見を述べる 新しいアイコンを作り、クラスメイトに英語で説明する。 決まったトピックについてエッセイを書く。		
		6週	Unit 13 Live well during climate change		自分の意見を述べる 新しいアイコンを作り、クラスメイトに英語で説明する。 決まったトピックについてエッセイを書く。		
		7週	Unit 14 End child labour		自分の意見を述べる 新しいアイコンを作り、クラスメイトに英語で説明する。 決まったトピックについてエッセイを書く。		
		8週	Unit 14 End child labour 新しい教科書の進め方		自分の意見を述べる 新しいアイコンを作り、クラスメイトに英語で説明する。 決まったトピックについてエッセイを書く。		

	4thQ	9週	Unit 1 No Poverty/Zero Hunger	予習の答え合わせ Researchのトピック決め ポスター・プレゼン発表の準備
		10週	Unit 1 No Poverty/Zero Hunger	ポスター・プレゼン発表
		11週	Unit 2 Good Health and Well-Being	予習の答え合わせ Researchのトピック決め ポスター・プレゼンの準備
		12週	Unit 2 Good Health and Well-Being	ポスター 発表
		13週	Unit 3 Quality Education	予習の答え合わせ Researchのトピック決め ポスター・プレゼン発表の準備
		14週	Unit 3 Quality Education	ポスター・プレゼン発表
		15週	期末テスト	
		16週	Unit 4 Gender Equality/Reduced Inequalities	期末テストの解説 春季休暇の課題の解説 (Unit4,5,6,)

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	期末試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ		合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	40	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	グローバル研修	
科目基礎情報							
科目番号		0005		科目区分		一般 / 選択	
授業形態		実験及び特別研究		単位の種別と単位数		学修単位: 1	
開設学科		ビジネスコミュニケーション学専攻 (ビジネスコミュニケーション学コース) (R4年度から)		対象学年		専1	
開設期		集中		週時間数			
教科書/教材							
担当教員		上野代 明子					
到達目標							
1. グローバルに関する課題、作業に関して積極的に、自発的に取り組むことができる。 2. 課題解決に必要なコミュニケーション能力を用いて、自らの意見を説明することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		到達目標の内容を実践		到達目標の内容を実践で理解している。		到達目標の内容を実践で理解していない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		グローバルに関する研修に参加し、研修をとおして、国際的に活躍できる能力を持つ実践的技術者、ビジネスパーソンを育成する。					
授業の進め方・方法		研修期間は休業中の本科30時間以上・専攻科45時間以上であることを原則とする。ただし、国際学会及び国際フォーラム・フェアにおけるにおける外国語での発表、その他国際化・SDGs推進センター長が事前に承認した場合には、授業期間中における活動を認め、事前の発表準備及び学習の時間も活動時間の一部とみなすことができる。					
注意点		提出された活動記録書の活動内容及び時間数、並びに報告書の内容を国際化・SDGs推進センター及び教務委員会で総合的に審査し、グローバル活動の総括時間が30時間以上の場合に合格とし、グローバル研修の単位として認定する。					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	以下のいずれかの研修を授業項目として認める 1.JSTS,ISTS 2.国際学会及び国際フォーラム・フェアなどによる外国語による研究発表 3.語学研修 4.文化体験型海外研修 5.国際ボランティア活動 6.海外におけるインターンシップ 7.その他グローバル化推進センター長が認めたもの				
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					

		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	特別研究 I
科目基礎情報						
科目番号	0011		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験及び特別研究		単位の種別と単位数	学修単位: 6		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）		対象学年	専1		
開設期	通年		週時間数	前期:8 後期:10		
教科書/教材						
担当教員	湯川 崇,原田 正光					
到達目標						
①社会科学系の幅広い知識が要求される課題に対して、問題解決に向けた計画を自ら立案できる。 ②継続的に研究計画を遂行するとともに、想定外の問題を解決する能力を身につける。 ③実験データの整理・分析等を行い、適切な解析および考察する力を身につける。 ④研究成果を報告書や論文にまとめ、学内外で発表することを通じて、ディスカッションやプレゼンテーション能力を身につける。 ⑤チームワークやリーダーシップ能力を身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	到達目標の内容を実践で理解し、応用できる。		到達目標の内容を実践で理解している。		到達目標の内容を実践で理解していない。	
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	指導教員の指導のもと、専門基礎知識を活用して自ら設定した課題について、さらに深い専門能力の進展を図り、課題解決能力、研究能力、デザイン能力、プレゼンテーション能力、チームワークやリーダーシップを発揮する能力、根気強く計画を遂行する能力を育成する。					
授業の進め方・方法	1. 芥川 一則 ①テーマ 地域経済に関する研究 ②内容 地域経済における課題をその研究対象とする。地域の概念は日本国内における地域、世界における国々といった全体に対する部分とする。対象へのアプローチを経済学的方法から行う。具体的には定量的分析と理論的分析を行う。地域における問題を発見させる。その問題について実証的研究を行う場合には定量的分析を用いる。データの収集および分析を行う。さらにその解決方法の検討を行う。論理的分析においては問題を定式化して解を求める。企業や行政が抱える課題も地域の問題の一つと捉え、研究対象とする。 2. 湯川 崇 ①テーマ 情報システムの構築・運用に関する研究 ②内容 本課題では、本科コミュニケーション情報学科で学んだ情報科学、プログラミング、情報システム等の知識や、専攻科で学ぶデータベース論の講義で修得した知識を基に、ビジネスの現場における様々な問題を解決するための情報システムの企画、設計、開発手法について学習・研究を行う。その中で情報収集および処理能力、企画力や創造力、計画遂行能力や判断力、継続的な学習能力、チームワークやリーダーシップ能力などのビジネスに必要な総合的な実践力を身につける。 3. 杉山 武史 ①テーマ 意思決定に関する研究 ②内容 本科および専攻科にて学習する数理科学系の科目（ゲーム理論、確率・統計学など）、オペレーションズ・リサーチ、経営学の知識を応用し、様々な状況において、状況をモデル化し意思決定する手法について学習し、その応用について研究する。 4. 田淵 義英 ①テーマ 現代社会の諸問題に対する認識論的探求 ②内容 本科で学習する人文社会科学系の科目と卒業研究の成果を基礎に、さらに高度な知識を習得するとともに、現代社会について主体的に思考する能力を育成する。現代社会の諸問題については、「何が問題であるか」を把握し解決策を提示するプロブレム・ソルビング（問題解決）型の研究が主流である。しかしその際、ひとたび把握された問題は所与とされ、その把握のされ方（認識）が問われることは少ない。それに対して本課題では、「私たちは何故それを問題と感じているのか」を根本から問い直し、私たちが「なにを知覚しているか」ではなく、「なにを知覚していないか」を明らかにすることで現代社会の問題を提示する、プロブレム・ポーシング（問題提示）型のアプローチで研究を行う。 5. 若林 晃央 ①テーマ 組織の合理性分析 ②内容 組織論では、組織は目的達成のために合理的に設計された用具であると考えられている。現実の組織では、合理的に設計したにもかかわらず逆機能を生み出していることもある。また、一見すると非合理的に見える部分も少なからずあるが、実は合理的役割を担っていることもある。組織論の枠組みと、組織を巡る背景知識を学ぶことで、現実の組織を分析する視座を養う。 6. 安部 智博 ①テーマ 会計制度および財務報告に関する研究 ②内容 本課題では、会計と現代社会との結びつきといった観点から、会計を取り巻く状況を的確にとらえる能力を涵養する。具体的には、専門文献を幅広く渉猟し、履修者自らが、現代的課題を析出し、適切な手法で考察を行う能力を涵養する。専攻科において履修した科目の知識をもとに、より広範な領域を射程に入れ、国際化の進む会計基準の形成や、それに伴う企業の財務報告の実態や変化についてディスカッション等を通じて検討を行う。 7. 渡邊 エリカ ①テーマ ビジネス英語に関する研究 ②内容 本課題では、学生がビジネス環境で活躍するために必要とする基本的な英語の概念を習得するとともに、ビジネス英語に関連する「基本的」「理論的」「実践的」な問題について研究する。組織内の仕事、職場での動機、世界中のビジネス文化、マーケティング、ブランディング、広告、プレゼンテーションについて理論と実践を組み合わせることにより、英語の語彙力と運用能力を身につける。					
注意点	研究テーマに対して、問題を自ら探して解決する積極的かつ自発的な取り組みを特に望む。 研究遂行50％、報告書30％、プレゼンテーション20％として総合的に評価し、60点以上を合格とする。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
	週	授業内容			週ごとの到達目標	

前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	取組状況	報告書	発表	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	30	20	0	0	0	100
基礎的能力	50	30	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	経営学演習	
科目基礎情報							
科目番号	0012			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	前期:4		
教科書/教材	なし						
担当教員	芥川 一則,湯川 崇,島村 浩,松江 俊一,田淵 義英,杉山 武史,若林 晃央,安部 智博,渡邊 エリカ						
到達目標							
①各テーマの演習内容を理解し、実行することができる。 ②演習及び解析から得られた結果をわかりやすく報告書にまとめ説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	到達目標の内容を実践で理解し、応用できる。			到達目標の内容を実践で理解している。		到達目標の内容を実践で理解していない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	経営学演習を通して授業で学んだ理論の理解を深める。						
授業の進め方・方法	授業計画に従い、各担当教員の指導のもと1週ずつ実施する。報告書100%で評価し、60点以上を合格とする。再試験は行わない。 この科目は学修単位科目のため、事前、事後の学習として、レポートを実施する。						
注意点	週6時間×10週間で実施する。 各テーマに対して、問題を自ら探して解決する積極的かつ自発的な取り組みを特に望む。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ビジネスデータの解析（担当：湯川）				
		2週	制約条件下の最適化行動（担当：芥川）				
		3週	企業と会計の関係（担当：安部）				
		4週	AI分析ツールの実習（担当：島村）				
		5週	意思決定問題の解決手法について（担当：杉山）				
		6週	WTO協定及びFTA（自由貿易協定）の利用による国際生産体制の最適化（担当：高木）				
		7週	技術中心時代の倫理（担当：田淵）				
		8週	アサーティブな対人コミュニケーション法の実習（担当：松江）				
	2ndQ	9週	非合理性の合理性（担当：若林）				
		10週	Discuss, research and write about a current social issue in Japan（担当：渡邊エリカ）				
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	課題	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	新事業開発	
科目基礎情報							
科目番号	0013			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	配布資料						
担当教員	湯川 崇,大川口 信一						
到達目標							
①新事業開発のプロセスを理解する。 ②情報の収集方法とまとめ方を身に付ける。 ③ビジネスプランの作成演習を通じて問題解決方法、案件組成能力を身に付ける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。			各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	市場・顧客ニーズをどのように見出して、具体的に事業化していくか。その手法とプロセスについて学んだ上で、個人またはチームによりアイデア探索を行う。						
授業の進め方・方法	講義と演習を合わせた形式で授業を行う。 定期的に課題レポートの提出を求める。また、当該課題レポートの内容について授業中の発表を求める。 期末試験の成績を60%、課題を40%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。						
注意点	日頃から新規創業（起業）に関するニュース、特に福島県内・いわき市内でのニュースに注意を払うこと。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	イントロダクション		起業を取り巻く諸環境と起業の意義		
		2週	新事業開発とは何か		新事業開発の具体的事例		
		3週	新事業開発のプロセス		新事業開発のためのフレームワーク		
		4週	新事業開発のプロセス		事業環境分析の方法		
		5週	新事業開発のプロセス		事業戦略分析の方法		
		6週	新事業開発のプロセス		ビジネスプランの作成方法		
		7週	新事業開発のプロセス		新規事業の財務戦略		
		8週	開発立案とリサーチ		定量的アプローチの方法		
	2ndQ	9週	開発立案とリサーチ		定性的アプローチの方法		
		10週	開発テーマ探索		実習の進め方、テーマ探索		
		11週	開発テーマ探索		テーマ発表、アイデア探索		
		12週	新事業アイデア探索		アイデア発表、ビジネスモデル策定		
		13週	新事業アイデア探索		ビジネスモデル発表、資金・利益計画策定		
		14週	新事業アイデア探索		ビジネスプラン発表		
		15週	まとめ		総括、期末試験の解説		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	40	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	生産管理論	
科目基礎情報							
科目番号	0014			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書は指定しない。						
担当教員	杉山 武史						
到達目標							
①生産管理の目的・位置づけ・概要・構成機能・業務プロセス・組織・課題について、その内容が説明できる。 ②講義で取り上げた生産管理に関わる各種管理手法や実施方式について、特徴と一般的な適用ケースを説明でき、論理を理解した上で基本的な計算が行える。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。			各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	生産管理の目的・概要・課題を学ぶ						
授業の進め方・方法	講義・演習の形式で授業を行う。 期末試験70%、課題30%にて評価し、60点以上を合格とする。						
注意点	問題を自力で解き、概念の理解に努めること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	数理最適化（1）	モデリングと定式化			
		2週	数理最適化（2）	最適化条件			
		3週	数理最適化（3）	ソルバーとアルゴリズム			
		4週	数理最適化（4）	LPの双対理論			
		5週	サプライチェーン（1）	生産計画（1）			
		6週	サプライチェーン（2）	生産計画（2）			
		7週	ネットワーク理論（1）	ネットワークとグラフ			
		8週	ネットワーク理論（2）	最短路問題			
	2ndQ	9週	ネットワーク理論（3）	ネットワークフロー問題			
		10週	ネットワーク理論（4）	ネットワークフロー問題			
		11週	スケジューリング	スケジューリング			
		12週	シミュレーション（1）	シミュレーション			
		13週	シミュレーション（2）	乱数とシミュレーション			
		14週	シミュレーション（3）	モンテカルロシミュレーション			
		15週	総合演習	期末試験解答用紙の返却・解説、総合復習			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	データ分析論	
科目基礎情報							
科目番号	0016			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	木田和廣、集中演習SQL入門Google BigQueryではじめるビジネスデータ分析、インプレス						
担当教員	湯川 崇						
到達目標							
①データベースの仕組みや役割を理解する。 ②リレーショナルデータベース・SQLの基礎を理解する。 ③ビジネスに役立つ知見を得るためのデータ分析手法を身につける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	リレーショナルデータベースの仕組みや役割を理解するとともに、実践を通してビジネスに役立つデータ分析の手法を学習する。						
授業の進め方・方法	定期試験は実施しない。 自学自習課題の実施状況を100%として評価し、60点以上を合格とする。 この科目は学修単位科目のため、事前、事後の学習として、レポートを実施する。						
注意点	課題は締め切りを厳守すること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	データベースの基礎知識		SQLによるデータ分析の意義を理解する		
		2週	BigQueryの利用		BigQueryを利用してSQLを実行できる		
		3週	SQLの基本構文		基本的なデータの抽出、絞り込み、並び替えができる		
		4週	グループ化とデータの集計		group byと集約関数の使い方を理解する		
		5週	テーブルの結合		テーブルの結合ができる		
		6週	集合演算		テーブルの集合演算ができる		
		7週	サブクエリー①		サブクエリーの使い方を理解する		
		8週	サブクエリー②		サブクエリーの応用的な使い方ができる		
	2ndQ	9週	さまざまな関数①		数値・文字列・日付時刻の演算ができる		
		10週	さまざまな関数②		目的に応じた関数を選択した分析ができる		
		11週	ウィンドウ関数①		様々なウィンドウ関数の使い方を理解する		
		12週	ウィンドウ関数②		ウィンドウ関数を利用した分析ができる		
		13週	データ分析の演習①		さまざまなデータを用いた分析ができる		
		14週	データ分析の演習②		さまざまなデータを用いた分析ができる		
		15週	データ分析の演習③		さまざまなデータを用いた分析ができる		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	50	0	0	0	0	50
専門的能力	0	50	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	財務諸表論		
科目基礎情報								
科目番号	0017			科目区分	専門 / 必修			
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）			対象学年	専1			
開設期	前期			週時間数	2			
教科書/教材	適宜指示する。							
担当教員	安部 智博							
到達目標								
会計と経済・社会との結びつきをより深く理解する。国際化への対応を射程に入れ、会計の全体像に関する理解を目指す。								
ルーブリック								
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1		各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。		
評価項目2								
評価項目3								
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要		現在、会計においても国際化が進んでいる。会計基準にはその考え方からもたらされる相違も存在し、現代的な課題となっている。その相違の背景を深く理解するため、会計に関連する概念の関連性に焦点を当てて検討していく。						
授業の進め方・方法		試験60％，課題40％（レジュメ）で総合的に評価し、60点以上を合格とする。再試験は行わない。						
注意点		毎回、授業用のレジュメを作成してもらいます。試験はレジュメおよび自筆ノートの持込を認めます。						
授業の属性・履修上の区分								
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	イントロダクション		財務会計の機能と制度について理解する。 企業会計原則，概念フレームワーク，個別基準，国際会計基準について理解する。			
		2週	基礎的な概念		財務報告に関する基礎的な概念を理解する。			
		3週	貸借対照表の変動		貸借対照表の構造および特徴について理解する。			
		4週	損益計算書と利益		損益計算書の構造と特徴について理解する。			
		5週	会計記録と会計システム		会計データの作成およびデータの流れについて理解する。			
		6週	収益と貨幣性資産の関連		現金主義会計と発生主義会計の違いを理解する。 収益の認識および測定について理解する。			
		7週	費用の認識と測定		費用の認識および測定について理解する。			
		8週	利益の算定		収益と費用の関係性，損益計算書と貸借対照表の連繋について理解する。			
	2ndQ	9週	棚卸資産と売上原価の関連		棚卸資産の取得原価と原価配分の関連を理解する。			
		10週	固定資産と減価償却の関連		固定資産と費用の関連性を理解する。 無形固定資産，繰延資産の特徴を理解する。			
		11週	負債と資本の会計		負債の区分と純資産の構成，株主資本の確定について理解する。 連結財務諸表の構造について理解する。			
		12週	キャッシュフロー計算書		キャッシュ・フロー計算書の特徴と意義を理解する。 貸借対照表と損益計算書との関係性を理解する。			
		13週	非営利組織の財務諸表		営利組織の財務諸表との違いを理解する。			
		14週	会計の国際化		会計の国際化とIFRSについて理解する。			
		15週	総括		これまでのまとめ			
		16週						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100	
基礎的能力	10	10	0	0	0	0	20	
専門的能力	50	30	0	0	0	0	80	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

福島工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	広告メディア論	
科目基礎情報							
科目番号	0018			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	スライドを使用。プリントは適宜必要に応じ配布。						
担当教員	湯川 崇,松田 拓						
到達目標							
1.広告活動を行うための効率的・効果的なマネジメント方法について理論と実務の双方の視点から理解する 2.地方都市の中小企業や自治体などの広告活動業務に従事できる基本の知識とスキルを習得する							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。			各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	インターネットやスマホ等の急速な普及、それに伴うSNS等による情報発信量の増大により、広告コミュニケーションが大きく変わろうとしている。広告戦略開発の最前線の現場においては、日々「広告戦略とは何か?、広告戦略に何ができるのか?」が議論され、新たなアプローチが模索され、具現化への挑戦が続いている。本講義では、広告の基本的な理論をカバーしながら、より実務事例からの学びに力点を置き議論を進めていきたい。それによって、マーケティング課題を捉える視座、広告コミュニケーションアイデアを創出する着眼、さまざまな広告媒体の採用等、の実践力（センス）を養ってもらいたい。まずは、大手食品メーカーや家電メーカー等身近な企業の広告戦略事例を取り上げ、広告戦略全般の理解を深めていく。続いて、「美脚用着圧ソックスブランド」の戦略開発・実施プロジェクトの考察を通して、広告制作の具体的手法を紹介する。さらに、効率的広告戦略マネジメントについて、「世界最大の一般消費財メーカー」の広告媒体出稿計画（メディアプランニング）のプロセスを紹介する。そして、現在進行中の「グラノーラ（シリアル）ブランド」の統合マーケティング・コミュニケーションを取り上げる。紹介するグラノーラ（シリアル）ブランドは短期間で300億円規模の市場を創出した近年では特異な成功事例と言える。大きな市場創出を生み出した戦略開発・実施プロセスをできる限り共有し、リアルタイムで進行する広告戦略プロジェクトを体感してほしい。最後に、ワークショップ形式で広告戦略開発を実践してもらおう機会を設けていきたい。						
授業の進め方・方法	課題レポートを40点とし、60点以上を合格とする。 この科目は学修単位科目のため、事前、事後学習の確認として定期的に授業内容を整理しまとめたものを提出させる。						
注意点	課題レポートでは、習得内容の応用発想や課題の理解を重視する。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		現代の広告の課題/広告メディア論の狙い		
		2週	企業活動と広告活動				
		3週	商品開発とコミュニケーション				
		4週	ブランド開発とコミュニケーション				
		5週	クリエイティブ戦略開発		クリエイティブブリーフィング		
		6週	クリエイティブ戦略開発		広告メッセージ開発		
		7週	クリエイティブ戦略開発		「美脚用着圧ソックスブランドの再生プロジェクト」の考察		
		8週	広告媒体戦略開発		メディアプランニング、広告効果検証		
	2ndQ	9週	広告媒体戦略開発		デジタルシフト		
		10週	広告媒体戦略開発		「世界最大の一般消費財メーカーのメディアプランニング」の考察		
		11週	IMC戦略開発		広告とPR、コンテンツコミュニケーション		
		12週	IMC戦略開発		「グラノーラ（シリアル）ブランドの事業再生プロジェクト」の考察1		
		13週	IMC戦略開発		「グラノーラ（シリアル）ブランドの事業再生プロジェクト」の考察2		
		14週	総括		広告活動業務の実践に向けて（演習）		
		15週	総括		全講義内容振り返り		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	企画書	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

福島工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	インターンシップA	
科目基礎情報							
科目番号		0019		科目区分		専門 / 必修	
授業形態		実験及び特別研究		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		ビジネスコミュニケーション学専攻 (ビジネスコミュニケーション学コース) (R4年度から)		対象学年		専1	
開設期		集中		週時間数			
教科書/教材		なし					
担当教員		原田 正光,湯川 崇					
到達目標							
①実践的・技術的感覚を養うことができる。 ②技術に対する社会の要請を知り、問題意識を養うことができる。 ③現場で働くことにより、確かな職業観を形成することができる。 ④創造性、チャレンジ精神および変化に対する柔軟性などを身につけることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		到達目標の内容を实践で理解し、応用できる。		到達目標の内容を实践で理解している。		到達目標の内容を实践で理解していない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		長期休業中に企業現場での就業体験、大学等での研究体験を通して、専門分野における高度な知識・技術に触れることにより、実践的・技術的感覚、確かな職業観、変化に対する柔軟性を育成するとともに、実習報告会を通じてプレゼンテーション能力を高める。インターンシップAは必修であり、2週間（実質10日－80時間）の実習、10時間のまとめ（報告書作成、報告会資料作成、報告会プレゼンテーション）で2単位とする。コース長が、事前指導、事後の報告書作成指導、報告会の発表指導を行う。【クラス分け方式】この科目は、校外の実習先で日頃から専門分野の実務経験に携わる技術者より基本事項の教授を受けたり、現場での指導者による実習を通して実践的に学習する授業である。					
授業の進め方・方法		・実習希望先調査 ・実習先との調整 ・実習先の決定 ・報告書提出 ・実習報告会					
注意点		社会人としての基本的なマナー（言葉づかい、挨拶、礼儀作法等）に十分な注意を払うこと。実習期間は2週間（実働10日間）を目安とする。 実習先からの実習記録票、実習報告書および実習報告会における発表等の内容を100%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					

		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	報告・発表等	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	インターンシップB	
科目基礎情報							
科目番号		0020		科目区分		専門 / 選択	
授業形態		実験及び特別研究		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		ビジネスコミュニケーション学専攻 (ビジネスコミュニケーション学コース) (R4年度から)		対象学年		専1	
開設期		集中		週時間数			
教科書/教材		なし					
担当教員		原田 正光,湯川 崇					
到達目標							
①実践的・技術的感覚を養うことができる。 ②技術に対する社会の要請を知り、問題意識を養うことができる。 ③現場で働くことにより、確かな職業観を形成することができる。 ④創造性、チャレンジ精神および変化に対する柔軟性などを身につけることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		到達目標の内容を実践で理解し、応用できる。		到達目標の内容を実践で理解している。		到達目標の内容を実践で理解していない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		長期休業中に企業現場での就業体験、大学等での研究体験を通して、専門分野における高度な知識・技術に触れることにより、実践的・技術的感覚、確かな職業観、変化に対する柔軟性を育成するとともに、実習報告会を通じてプレゼンテーション能力を高める。必修のインターンシップAの他に2週間の実習及びまとめを行い2単位とする。この科目は、校外の実習先で日頃から専門分野の実務経験に携わる技術者より基本事項の教授を受けたり、現場での指導者による実習を通して実践的に学習する授業である。					
授業の進め方・方法		・実習希望先調査 ・実習先との調整 ・実習先の決定 ・報告書提出 ・実習報告会					
注意点		社会人としての基本的なマナー（言葉づかい、挨拶、礼儀作法等）に十分な注意を払うこと。実習期間は2週間（実働10日間）を目安とする。実習先からの実習記録票および実習報告書の内容を100%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					

		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	報告・発表等	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	環境保全工学	
科目基礎情報							
科目番号	0009			科目区分	専門関連 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	配布資料						
担当教員	押手 茂克,原田 正光						
到達目標							
①自然の浄化機能について授業計画にある内容が説明できる。 ②河川、湖沼、沿岸域の環境保全手法について授業計画にある内容が説明できる。 ③PRTR法やMSDSなどを理解し、化学物質の安全管理の基礎的事項を理解できる。 ④発生した化学物質の分析の概要が説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。			各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	自然環境問題および自然の浄化機能について解説し、河川、湖沼、沿岸域における環境保全手法について事例を挙げて講述する。そして、人間社会の大量生産・消費で発生した化学物質について、リスク管理と評価及び環境分析の概要を講義する。						
授業の進め方・方法	試験の成績を80%、課題等の成績を20%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。 この科目は学修単位科目のため、事前、事後の学習として、課題を実施する。						
注意点	前半の授業の課題は第15週目に提出すること。なお課題への取組の成果は試験で確認する。 後半の授業では定期的な課題と小テストの実施と、最後の試験で総合的に確認する。課題・小テスト状況から、各自達成度を把握してさらに自習すること。 *後半の授業では計算を行うことがあるので関数電卓を準備しておくこと。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	自然環境問題と保全工学		生態系の構造、自然環境問題		
		2週	生態系における物質循環		生物生産、有機物分解、食物連鎖		
		3週	河川環境		自浄作用とそのモデル化		
		4週	湖沼環境		富栄養化現象とそのモデル化		
		5週	干潟環境		干潟と湿地の浄化のしくみ		
		6週	環境中の放射性物質の動態		放射性セシウム、水循環系における動態		
		7週	環境修復技術		礫間接触酸化法、強制循環曝気法、人工干潟、人工湿地、ミチゲーション、生態工学		
	2ndQ	8週	化学物質(1)		PRTR法、リスクコミュニケーション		
		9週	化学物質(2)		リスクとハザード、MSDS		
		10週	環境リスクと評価(1)		リスク評価の考え方		
		11週	環境リスクと評価(2)		暴露量評価、演習		
		12週	環境リスクと評価(3)		暴露量評価、演習		
		13週	環境分析		分析法の概要		
		14週	学習内容の整理		環境保全の学習内容（1～7週、及び、8～13週）の重要な点を整理/確認		
		15週	環境保全工学の総括/学習内容の確認		環境保全工学のまとめ		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	現代化学	
科目基礎情報							
科目番号	0010			科目区分	専門関連 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	大人のための科学 高校で教わりたかった化学, 渡辺 正・北條博彦, 日本評論社						
担当教員	酒巻 健司						
到達目標							
①原子の電子構造や結合のミクロ世界を説明できる。 ②反応の方向や平衡を, 標準生成ギブスエネルギーや酸化還元電位から説明できる。 ③光エネルギーを説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。			各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	化学は、未開の地も多い物質世界に分け入って創造を目指す学問ですが、その手前で想像の力を要求します。それは、目に見えない電子や光子, 原子や分子の振る舞いを思い浮かべる力です。本講義では、原子どうしがなぜつながりあうのか, 化学反応はなぜその向きに進むのかを, 簡単な量子論と結合論のミクロな世界や, 熱力学・平衡論や速度論のマクロな世界から概説します。						
授業の進め方・方法	定期試験成績を100%として, 100点法の60点以上を合格とする。この科目は学修単位科目のため, 事前, 事後の学習として, 演習プリントの配布を実施する。						
注意点	化学は暮らしにいちばん縁の深い科目です。各自の専門分野と化学との関わりが非常に多いことに気がつくと思います。化学的知識の獲得は, 創造的な仕事に大いに役立つとともに, 境界領域や新分野の萌芽に生かされます。授業計画日程等に変更を要した際は, 早めにその連絡に努めます。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	序論 見えない世界		持続的発展可能な社会, 物質科学の原点		
		2週	安定な元素はいくつ?		量子化学的にみた粒子とは,		
		3週	周期表とはなんだろう?		量子化学的にみた原子, 分子, 化学結合		
		4週	原子はなぜつながり合う?		量子化学的にみた電子やイオン		
		5週	イオンとはなに?		量子化学的にみた物質の構造		
		6週	水分子はなぜ「く」の字に曲がる		量子化学的にみた光学の性質, 光と物質		
		7週	モルとは何か?		量子化学的にみた物質の電氣的・磁氣的性質		
		8週	熱と温度はどうちがう?		ボルツマン定数, エネルギーの等分配則		
	2ndQ	9週	化学反応の向き		標準生成ギブスエネルギー, 標準酸化還元電位		
		10週	化学反応はどのように進む		反応の方向, 進み方, 終わりは?		
		11週	エネルギーと物質 (1)		エネルギーの形態と変換		
		12週	エネルギーと物質 (2)		水の電気分解, 水の光分解, 燃料電池		
		13週	フェノールフタレインの色は?		光子, 光のエネルギー, 人工光合成		
		14週	環境と技術		グリーンケミストリー, 見果てぬ夢ー室温超伝導体		
		15週	期末試験の解説, 総括		解答例配布とその解説, 達成度の記載		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	現代英語Ⅲ	
科目基礎情報							
科目番号	0021			科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	Developing Academic English – Intermediate –(朝日出版)						
担当教員	本田 崇洋						
到達目標							
英文を正確に読むことができる能力を養い、4 技能へ繋がるための英語力を確実に定着させる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		学習内容をに身につけ、それをもとに発展した考えをもつことができる		学習内容を理解し、おおよそ身につけている		学習した内容が身についていない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	テキストを中心に進めます。これまで得た英語の知識や能力の再確認とともに、発展した英語力を育てていきます。						
授業の進め方・方法	定期試験 6 0 %、課題 4 0 %として 6 0 点以上を合格とする。						
注意点	予習と復習を前提としている授業です。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	授業の進め方 unit1		精読、内容理解		
		2週	unit1		練習問題、ディクテーション、英作文		
		3週	unit2		精読、内容理解		
		4週	unit2		練習問題、ディクテーション、英作文		
		5週	unit3		精読、内容理解		
		6週	unit3		練習問題、ディクテーション、英作文		
		7週	unit4		精読、内容理解		
	2ndQ	8週	unit4		練習問題、ディクテーション、英作文		
		9週	unit5		精読、内容理解		
		10週	unit5		練習問題、ディクテーション、英作文		
		11週	unit6		精読、内容理解		
		12週	unit6		練習問題、ディクテーション、英作文		
		13週	unit7		精読、内容理解		
		14週	unit7		練習問題、ディクテーション、英作文		
		15週	unit8		精読、内容理解		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	40	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	グローバル研修	
科目基礎情報							
科目番号		0022		科目区分		一般 / 選択	
授業形態		実験及び特別研究		単位の種別と単位数		学修単位: 1	
開設学科		ビジネスコミュニケーション学専攻 (ビジネスコミュニケーション学コース) (R4年度から)		対象学年		専2	
開設期		集中		週時間数			
教科書/教材							
担当教員		高野 克宏					
到達目標							
1. グローバルに関する課題、作業に関して積極的に、自発的に取り組むことができる。 2. 課題解決に必要なコミュニケーション能力を用いて、自らの意見を説明することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		到達目標の内容を実践		到達目標の内容を実践で理解している。		到達目標の内容を実践で理解していない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		グローバルに関する研修に参加し、研修をとおして、国際的に活躍できる能力を持つ実践的技術者、ビジネスパーソンを育成する。					
授業の進め方・方法		研修期間は休業中の本科30時間以上・専攻科45時間以上であることを原則とする。ただし、国際学会及び国際フォーラム・フェアにおけるにおける外国語での発表、その他国際化・SDGs推進センター長が事前に承認した場合には、授業期間中における活動を認め、事前の発表準備及び学習の時間も活動時間の一部とみなすことができる。					
注意点		提出された活動記録書の活動内容及び時間数、並びに報告書の内容を国際化・SDGs推進センター及び教務委員会で総合的に審査し、グローバル活動の総括時間が30時間以上の場合に合格とし、グローバル研修の単位として認定する。					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	以下のいずれかの研修を授業項目として認める 1.JSTS,ISTS 2.国際学会及び国際フォーラム・フェアなどによる外国語による研究発表 3.語学研修 4.文化体験型海外研修 5.国際ボランティア活動 6.海外におけるインターンシップ 7.その他、国際化・SDGs推進センター長が認めたもの				
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					

		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	特別研究Ⅱ
科目基礎情報						
科目番号	0030			科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験及び特別研究			単位の種別と単位数	学修単位: 8	
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）			対象学年	専2	
開設期	通年			週時間数	前期:12 後期:12	
教科書/教材						
担当教員	齊藤 充弘,湯川 崇					
到達目標						
①社会科学系の幅広い知識が要求される課題に対して、問題解決に向けた計画を自ら立案できる。 ②継続的に研究計画を遂行するとともに、想定外の問題を解決する能力を身につける。 ③実験データの整理・分析等を行い、適切な解析および考察する力を身につける。 ④研究成果を報告書や論文にまとめ、学内外で発表することを通じて、ディスカッションやプレゼンテーション能力を身につける。 ⑤チームワークやリーダーシップ能力を身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	到達目標の内容を実践で理解し、応用できる。		到達目標の内容を実践で理解している。		到達目標の内容を実践で理解していない。	
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	指導教員の指導のもと、専門基礎知識を活用して自ら設定した課題について、さらに深い専門能力の進展を図り、課題解決能力、研究能力、デザイン能力、プレゼンテーション能力、チームワークやリーダーシップを発揮する能力、根気強く計画を遂行する能力を育成する。					
授業の進め方・方法	1. 芥川 一則 ①テーマ 地域経済に関する研究 ②内容 地域経済における課題をその研究対象とする。地域の概念は日本国内における地域、世界における国々といった全体に対する部分とする。対象へのアプローチを経済学的方法から行う。具体的には定量的分析と理論的分析を行う。地域における問題を発見させる。その問題について実証的研究を行う場合には定量的分析を用いる。データの収集および分析を行う。さらにその解決方法の検討を行う。論理的分析においては問題を定式化して解を求める。企業や行政が抱える課題も地域の問題の一つと捉え、研究対象とする。 2. 湯川 崇 ①テーマ 情報システムの構築・運用に関する研究 ②内容 本課題では、本科コミュニケーション情報学科で学んだ情報科学、プログラミング、情報システム等の知識や、専攻科で学ぶデータベース論の講義で修得した知識を基に、ビジネスの現場における様々な問題を解決するための情報システムの企画、設計、開発手法について学習・研究を行う。その中で情報収集および処理能力、企画力や創造力、計画遂行能力や判断力、継続的な学習能力、チームワークやリーダーシップ能力などのビジネスに必要な総合的な実践力を身につける。 3. 杉山 武史 ①テーマ 数理科学とその応用に関する研究 ②内容 数理科学の深い知識の修得のため応用数学を含む数学分野の科目について学ぶ。数理科学やオペレーションズ・リサーチの知識を応用し、諸問題に対し数理科学的視点から分析を行う。 4. 田淵 義英 ①テーマ 現代社会の諸問題に対する認識論的探求 ②内容 本科で学習する人文社会科学系の科目と卒業研究の成果を基礎に、さらに高度な知識を習得するとともに、現代社会について主体的に思考する能力を育成する。現代社会の諸問題については、「何が問題であるか」を把握し解決策を提示するプロブレム・ソルビング（問題解決）型の研究が主流である。しかしその際、ひとたび把握された問題は所与とされ、その把握のされ方（認識）が問われることは少ない。それに対して本課題では、「私たちは何故それを問題と感じているのか」を根本から問い直し、私たちが「なにを知覚しているか」ではなく、「なにを知覚していないか」を明らかにすることで現代社会の問題を提示する、プロブレム・ボーシング（問題提示）型のアプローチで研究を行う。 5. 若林 晃史 ①テーマ 組織の合理性分析 ②内容 組織論では、組織は目的達成のために合理的に設計された用具であると考えられている。現実の組織では、合理的に設計したにもかかわらず逆機能を生み出していることもある。また、一見すると非合理的に見える部分も少なからずあるが、実は合理的役割を担っていることもある。組織論の枠組みと、組織を巡る背景知識を学ぶことで、現実の組織を分析する視座を養う。 6. 安部 智博 ①テーマ 会計制度および財務報告に関する研究 ②内容 本課題では、会計と現代社会との結びつきといった観点から、会計を取り巻く状況を的確にとらえる能力を涵養する。具体的には、専門文献を幅広く渉猟し、履修者自らが、現代的課題を析出し、適切な手法で考察を行う能力を涵養する。専攻科において履修した科目の知識をもとに、より広範な領域を射程に入れ、国際化の進む会計基準の形成や、それに伴う企業の財務報告の実態や変化についてディスカッション等を通じて検討を行う。					
注意点	研究テーマに対して、問題を自ら探して解決する積極的かつ自発的な取り組みを特に望む。 研究遂行50％、報告書30％、プレゼンテーション20％として総合的に評価し、60点以上を合格とする。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				

		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
	後期	3rdQ	1週	
			2週	
			3週	
			4週	
			5週	
			6週	
			7週	
			8週	
		4thQ	9週	
			10週	
			11週	
			12週	
			13週	
			14週	
			15週	
			16週	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	取組状況	報告書	発表	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	30	20	0	0	0	100
基礎的能力	50	30	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	グローバル経営論	
科目基礎情報							
科目番号	0031		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻 (ビジネスコミュニケーション学コース) (R4年度から)		対象学年		専2		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	特定の教科書は使用しない。						
担当教員	芥川 一則,栗林 利紗						
到達目標							
グローバルなビジネス環境下での競争戦略について理論と実務の両面から理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	組織の経営が国境を越えて行われたときのインパクトや国家間のビジネス環境の違いを認識・理解する。						
授業の進め方・方法	100分間の期末試験を実施する。 期末試験70%・課題等30%として、総合的に評価し、60点以上を合格とする。						
注意点	日頃から企業の活動に関心を持つようにし、新聞等の購読等に務めること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	国際経営とは何か(1)		授業の説明、国際経営の定義		
		2週	国際経営とは何か(2)		国際経営の定義		
		3週	国際経営の環境		グローバルなビジネス環境とマクロ問題		
		4週	国際経営の理論		企業のグローバル展開の理論とその実状		
		5週	多国籍企業の経営		多国籍企業経営の理論と実務		
		6週	国際マーケティング		グローバル環境下におけるマーケティングの手法		
		7週	海外生産・研究開発(1)		海外における海外生産／研究開発のメリット・デメリット		
		8週	海外生産・研究開発(2)		海外における海外生産／研究開発のメリット・デメリット		
	2ndQ	9週	国際人的資源管理		人的資源の確保・管理 (業績評価等含む)		
		10週	国際財務管理		財務管理の手法		
		11週	国際経営組織		グローバル展開における組織運営		
		12週	国際戦略提携		グローバル化における戦略提携のあり方		
		13週	異文化経営		国、文化、経済の違いなどを踏まえた経営のあり方		
		14週	欧米・アジアの多国籍企業		欧米・アジア諸国の多国籍企業の例		
		15週	後期期末試験講評		授業内容の確認		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	期末試験		課題		合計		
総合評価割合		70	30		100		
専門的能力		70	30		100		

福島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	経営分析論	
科目基礎情報							
科目番号	0032		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）		対象学年		専2		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	適宜指定する。						
担当教員	安部 智博						
到達目標							
ファンダメンタル分析の手法や指標を実際の企業分析に利用できるようになる。企業について深く理解することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	15回開講のうち前半は、文献等を輪読し、経営分析の手法や指標について議論を行う。後半は、実際に企業のデータを利用し、財務諸表分析を踏まえて企業の経営分析を行う。						
授業の進め方・方法	期末レポート60％、課題40％で総合的に評価し、60点以上を合格とする。						
注意点	前半部分については、授業で報告するためのレジュメを作成してもらいます。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	イントロダクション		授業の進め方について理解する。		
		2週	企業を取り巻く環境		企業の状況について多角的に検討できる。		
		3週	企業価値とは		企業価値について理解する。		
		4週	企業活動と財務諸表の関連		企業活動と財務諸表の関連を理解する。		
		5週	ファンダメンタル分析の基礎		ファンダメンタル分析の指標を理解する。		
		6週	ファンダメンタル分析の演習		ファンダメンタル分析ができる。		
		7週	企業における戦略分析		経営戦略と会計データの関係性を理解する。		
		8週	ケース・スタディ（1）		産業の特性と企業の特徴とをファンダメンタル分析を通じて理解する。		
	4thQ	9週	ケース・スタディ（2）		同上		
		10週	企業分析の準備		分析対象企業を選択し、産業および企業の特徴を説明できる。		
		11週	企業分析演習（1）		これまでの知識を踏まえ、適切な分析方法を検討し、実際に企業分析ができる。		
		12週	企業分析演習（2）		同上		
		13週	企業分析演習（3）		同上		
		14週	企業分析演習（4）		同上		
		15週	企業分析演習（5）		同上。期末レポートを提出する		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	レポート	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	10	10	0	0	0	0	20
専門的能力	40	20	0	0	0	0	60
分野横断的能力	10	10	0	0	0	0	20

福島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	システム論	
科目基礎情報							
科目番号	0034		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）		対象学年		専2		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	プリント等						
担当教員	大槻 正伸						
到達目標							
・システムの概念が理解できる ・システムを解析する基本的手法が理解できる。 ・システムの最適化の基本的手法が理解でき、実際に簡単な問題に応用できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
システムの解析手法		各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
システムの最適化手法		各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	システム的なものの見方を理解し、さまざまなシステムの解析手法について学ぶ。また重要なシステムの最適化手法について学ぶ。 この科目は、企業でコンピュータシステム設計を担当した教員がその経験を生かし、システム解析等について講義を行う						
授業の進め方・方法	システムの解析の意義を理解したのち、線形計画の解析手法、最適化手法を学ぶ。後半はシステム解析のためのグラフの応用について学ぶ。この科目は学修単位科目のため、事前、事後の学習として、定期的にレポートを提出させる。 評価方法 定期試験の成績を80%、小テストや課題の総点を20%として総合的に評価し60点以上を合格とする。						
注意点	代表的なシステムの解析手法を丁寧に解説するので、演習等を通して一つ一つ確実に理解すること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	システムとは何か、様々なシステム		システムとは何か、社会にみられる様々なシステム		
		2週	システム工学の目的、必要性、数学モデル		システムを解析することの重要性、数学モデルの必要性、様々な数学モデル		
		3週	システムと連立一次方程式（1）		システムと連立一次方程式の関連、システム解析問題から導かれる連立一次方程式		
		4週	システムと連立一次方程式（2）		連立一次方程式、線形代数の基礎、行列の基本演算		
		5週	システムと連立一次方程式（3）		システム解析と連立一次方程式の解法 Gauss-Jordan法、または反復法について		
		6週	システムと連立一次方程式（4）		連立一次方程式の解法プログラム（1） Gauss-Jordan法またはJacobi法、Gauss-Seidel法		
		7週	システムと連立一次方程式（5）		連立一次方程式の解法プログラム演習		
		8週	数理計画法、線形計画法		数理計画法、線形計画法、最適化問題		
	4thQ	9週	シンプレックス法（1）		シンプレックス法の基礎、スラック変数、標準形		
		10週	シンプレックス法（2）		シンプレックス法と基底変数、基底解		
		11週	シンプレックス法（3）		シンプレックス法アルゴリズム		
		12週	グラフ理論		システムを表現、解析するためのグラフ理論からの準備		
		13週	グラフ理論とシステム解析への応用		グラフで表現されるシステムの解析手法、SFGとMasonの方法		
		14週	グラフと輸送問題、最適化問題		グラフで表現された輸送問題、最短経路問題と線形計画法		
		15週	総合演習		演習問題を通して総合的に知識を整理する。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	インターンシップA	
科目基礎情報							
科目番号		0035		科目区分		専門 / 必修	
授業形態		実験及び特別研究		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		ビジネスコミュニケーション学専攻 (ビジネスコミュニケーション学コース) (R4年度から)		対象学年		専2	
開設期		集中		週時間数			
教科書/教材		なし					
担当教員		齊藤 充弘,湯川 崇					
到達目標							
①実践的・技術的感覚を養うことができる。 ②技術に対する社会の要請を知り、問題意識を養うことができる。 ③現場で働くことにより、確かな職業観を形成することができる。 ④創造性、チャレンジ精神および変化に対する柔軟性などを身につけることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		到達目標の内容を実践で理解し、応用できる。		到達目標の内容を実践で理解している。		到達目標の内容を実践で理解していない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		長期休業中に企業現場での就業体験、大学等での研究体験を通して、専門分野における高度な知識・技術に触れることにより、実践的・技術的感覚、確かな職業観、変化に対する柔軟性を育成するとともに、実習報告会を通じてプレゼンテーション能力を高める。インターンシップAは必修であり、2週間（実質10日－80時間）の実習、10時間のまとめ（報告書作成、報告会資料作成、報告会プレゼンテーション）で2単位とする。コース長が、事前指導、事後の報告書作成指導、報告会の発表指導を行う。【クラス分け方式】この科目は、校外の実習先で日頃から専門分野の実務経験に携わる技術者より基本事項の教授を受けたり、現場での指導者による実習を通して実践的に学習する授業である。					
授業の進め方・方法		・実習希望先調査 ・実習先との調整 ・実習先の決定 ・報告書提出 ・実習報告会					
注意点		社会人としての基本的なマナー（言葉づかい、挨拶、礼儀作法等）に十分な注意を払うこと。実習期間は2週間（実働10日間）を目安とする。 実習先からの実習記録票、実習報告書および実習報告会における発表等の内容を100%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					

		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	報告・発表等	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	インターンシップB	
科目基礎情報							
科目番号	0036			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験及び特別研究			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）			対象学年	専2		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材	なし						
担当教員	齊藤 充弘,湯川 崇						
到達目標							
①実践的・技術的感覚を養うことができる。 ②技術に対する社会の要請を知り、問題意識を養うことができる。 ③現場で働くことにより、確かな職業観を形成することができる。 ④創造性、チャレンジ精神および変化に対する柔軟性などを身につけることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	到達目標の内容を実践で理解し、応用できる。		到達目標の内容を実践で理解している。		到達目標の内容を実践で理解していない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	長期休業中に企業現場での就業体験、大学等での研究体験を通して、専門分野における高度な知識・技術に触れることにより、実践的・技術的感覚、確かな職業観、変化に対する柔軟性を育成するとともに、実習報告会を通じてプレゼンテーション能力を高める。必修のインターンシップAの他に2週間の実習及びまとめを行い2単位とする。この科目は、校外の実習先で日頃から専門分野の実務経験に携わる技術者より基本事項の教授を受けたり、現場での指導者による実習を通して実践的に学習する授業である。						
授業の進め方・方法	・実習希望先調査 ・実習先との調整 ・実習先の決定 ・報告書提出						
注意点	社会人としての基本的なマナー（言葉づかい、挨拶、礼儀作法等）に十分な注意を払うこと。実習期間は2週間（実働10日間）を目安とする。 実習先からの実習記録票および実習報告書の内容を100%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					

		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	報告・発表等	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	インターンシップC	
科目基礎情報							
科目番号		0037		科目区分		専門 / 選択	
授業形態		実験及び特別研究		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		ビジネスコミュニケーション学専攻 (ビジネスコミュニケーション学コース) (R4年度から)		対象学年		専2	
開設期		集中		週時間数			
教科書/教材							
担当教員		齊藤 充弘,湯川 崇					
到達目標							
①実践的・技術的感覚を養うことができる。 ②技術に対する社会の要請を知り、問題意識を養うことができる。 ③現場で働くことにより、確かな職業観を形成することができる。 ④創造性、チャレンジ精神および変化に対する柔軟性などを身につけることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		到達目標の内容を実践で理解し、応用できる。		到達目標の内容を実践で理解している。		到達目標の内容を実践で理解していない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		長期休業中に企業現場での就業体験、大学等での研究体験を通して、専門分野における高度な知識・技術に触れることにより、実践的・技術的感覚、確かな職業観、変化に対する柔軟性を育成するとともに、実習報告会を通じてプレゼンテーション能力を高める。インターンシップA、インターンシップBの他に2週間の実習及びまとめを行い2単位とする。 この科目は、校外の実習先で日頃から専門分野の実務経験に携わる技術者より基本事項の教授を受けたり、現場での指導者による実習を通して実践的に学習する授業である。					
授業の進め方・方法		・実習希望先調査 ・実習先との調整 ・実習先の決定 ・報告書提出					
注意点		社会人としての基本的なマナー（言葉づかい、挨拶、礼儀作法等）に十分な注意を払うこと。実習期間は2週間（実働10日間）を目安とする。 実習先からの実習記録票および実習報告書の内容を100%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					

		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	製品開発論	
科目基礎情報							
科目番号	0023		科目区分		専門関連 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）		対象学年		専2		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	配布資料						
担当教員	芳賀 宏一郎,湯川 崇						
到達目標							
①製品開発に関する基礎的な知識、理論について理解する。 ②製品開発における「考える」ことを通して、理解を深め実践的な知識を身に付ける。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	「製品開発とは何か？ 製品開発はどう進めるべきか？ 製品開発を成功させるにはどうすべきか？」など、製品開発を行う上では基本的な知識、理論が必要であり、また開発を遂行する上では臨機応変に考える力が求められます。製品開発を構成する体系を押さえ、各体系要素の基本的な知識、理論を学びます。さらに、事例紹介から実際に学び、ケース・スタディーにより製品開発への理解を深めていきます。						
授業の進め方・方法	製品の企画から製品開発を進め、市場に展開する流れで自分自身が製品開発を行うとしたら、どう取り組むかについて考えることに主眼を置いて授業を進めます。方法としては、理論と事例による実際を踏まえ、ケース・スタディーによる検討、発表を中心とした方法とします。						
注意点	自学自習の確認方法：ケース・スタディーでの検討内容を確認します。 定期試験の成績80%、課題等20%で総合的に評価し、60点以上を合格とします。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション		授業ガイダンス 学生と講師間のラ・ポール構築を図る。		
		2週	戦略を考える		何故この製品を開発するのか？ 企業戦略と事業戦略の中での製品開発を理解する。		
		3週	顧客価値を掴む		どのような製品を開発するのか？ シーズとニーズ、顧客志向を理解する。		
		4週	競争優位性とは何か		他の製品と何が違うのか？ 競争優位、差別化について理解する。		
		5週	技術戦略を考える		製品化できる技術はあるか？ 製品を具体化する上での技術を理解する。		
		6週	ケース・スタディー（1）製品開発企画提案書の作成		自分の製品企画を会社に提案！ 製品開発企画提案書の作成。		
		7週	ケース・スタディー（2）製品開発企画提案 プレゼン実施		自分の製品企画を会社に提案！ プレゼン・発表。		
		8週	成功要因を押さえる		どのように開発するのか？ 成果を出す上での成功要因を理解する。		
	4thQ	9週	開発プロセスとは		どのように開発するのか？ 成果を出す上でのプロセスを理解する。		
		10週	製品開発の組織を考える		どのように開発するのか？ 成果を出す上での開発組織を理解する。		
		11週	企業間のサイマル化・ネットワークの重要性		製品化の技術力を強化するには？ 製品を具体化するサイマル化・ネットワークを理解する。		
		12週	ケース・スタディー（3）製品開発キックオフ資料の作成		自分の企画製品を開発キックオフさせる！ 製品開発キックオフ資料の作成		
		13週	ケース・スタディー（4）製品開発キックオフ プレゼン実施		自分の企画製品を開発キックオフさせる！ プレゼン・発表		
		14週	スタート・アップ オープン・イノベーション		製品開発できる能力を拡げる。 成功率を高める仕組みを理解する。		
		15週	まとめ		総括、期末試験の解説		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100

專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	経済産業論	
科目基礎情報							
科目番号	0024			科目区分	専門関連 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	産業組織論、新庄浩二、有斐閣ブックス,プリント資料他						
担当教員	芥川 一則						
到達目標							
①経済動向における企業の行動を過去の事例から理解する。 ②企業の論理的な行動について理解する。 ③現実の問題の分析能力を身につける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 経済動向における企業の行動を過去の事例から理解する。	各授業項目の内容を理解し、応用できる。			各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
評価項目2 企業の論理的な行動について理解する。	各授業項目の内容を理解し、応用できる。			各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
評価項目3 現実の問題の分析能力を身につける。	各授業項目の内容を理解し、応用できる。			各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	企業を取り巻く経済状況は、日々変化している。企業の行動と経済の動向を分けて分析すると企業への外部要因が見えにくくなる。そこで経済動向における企業活動について講義する。						
授業の進め方・方法	期末試験は100分の試験を実施する。 定期試験の成績を80%、課題を20%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。 この科目は学修単位科目のため、事前、事後学習の確認として定期的に授業内容を整理しまとめたものを提出させる。						
注意点	自学自習の確認方法－課題プリントを学生に配布し、それを定期的に提出させる。 定期試験の成績を80%、課題を20%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	はじめに		導入と授業の進め方		
		2週	企業の理論		企業の本質、組織、行動原理		
		3週	競争と独占		完全競争モデル、独占モデル		
		4週	寡占		独占と完全競争の間		
		5週	日本の産業構造		市場支配と市場集中度		
		6週	製品差別化		差別化の方法		
		7週	参入と戦略的行動		参入障壁と戦略的行動		
		8週	強調行動		寡占的価格行動		
	2ndQ	9週	市場成果		利潤率と資源配分効率		
		10週	多角化・合併		多角化と日本の産業組織		
		11週	研究開発とイノベーション		技術革新と研究開発		
		12週	産業集積と中小企業		日本の産業集積の現状と課題		
		13週	独占禁止政策		独占禁止政策の歴史		
		14週	直接規制政策		公的規制の定義と規制の根拠		
		15週	総合復習		専門用語の確認		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験		課題		合計		
総合評価割合	80		20		100		
基礎的能力	40		10		50		
専門的能力	20		5		25		
分野横断的能力	20		5		25		

福島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	都市経済学	
科目基礎情報							
科目番号	0025			科目区分	専門関連 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	都市経済学の基礎、佐々木公明・文世一、有斐閣アルマ,プリント資料他						
担当教員	芥川 一則						
到達目標							
①都市の論理的形成を理解する。 ②都市の構造を理解する。 ③現実の問題の分析能力を身につける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 都市の論理的形成を理解する。	各授業項目の内容を理解し、応用できる。			各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
評価項目2 都市の構造を理解する。	各授業項目の内容を理解し、応用できる。			各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
評価項目3 現実の問題の分析能力を身につける。	各授業項目の内容を理解し、応用できる。			各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	都市の形成過程でみられる規模の経済、集積の経済について取り上げる。輸送費最小化の観点から見た企業の立地点、アロンソ型都市モデルにおける地代決定メカニズム、そして都市規模と都市システムについて講義する。						
授業の進め方・方法	期末試験は100分の試験を実施する。 定期試験の成績を80%、課題を20%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。 この科目は学修単位科目のため、事前、事後学習の確認として定期的に授業内容を整理しまとめたものを提出させる。						
注意点	自学自習の確認方法－課題プリントを学生に配布し、それを定期的に提出させる。 定期試験の成績を80%、課題を20%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	はじめに		導入と授業の進め方		
		2週	都市はなぜ形成されるのか（1）		機会費用、比較優位		
		3週	都市はなぜ形成されるのか（2）		規模の経済、集積の経済		
		4週	都市はどこに形成されるのか		輸送費最小化		
		5週	都市内の土地市場		地価と地代		
		6週	都市内土地利用と地代の決定（1）		アロンソ型都市モデル		
		7週	都市内土地利用と地代の決定（2）		家計の行動		
		8週	都市内土地利用と地代の決定（3）		市場地代の決定		
	4thQ	9週	都市内土地利用と地代の決定（4）		土地利用の効率性		
		10週	都市内土地利用と地代の決定（5）		企業の立地行動		
		11週	サブセンターの形成		都市の拡大とサブセンター		
		12週	土地利用の規制		ゾーニングの必要性		
		13週	都市規模と都市システム		市場都市と中心地理論		
		14週	総合復習（1）		専門用語の確認		
		15週	総合復習（2）		専門用語の確認		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		試験	課題		合計		
総合評価割合		80	20		100		
基礎的能力		40	10		50		
専門的能力		20	5		25		
分野横断的能力		20	5		25		

福島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	ビジネス英語	
科目基礎情報							
科目番号	0026		科目区分		専門関連 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）		対象学年		専2		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材							
担当教員	渡邊 エリカ						
到達目標							
Students will be expected to participate actively using English during the class. Grading will be based upon participation, written work, and presentations.							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	This course is a survey of business terms and concepts. Focus will be on reports and presentations						
授業の進め方・方法							
注意点	Students will be expected to participate actively using English during the class. Grading will be based upon participation, written work, and presentations						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Introductions		Discussing research and job goals		
		2週	Live to Work or Work to Live		Benefits and rewards associated with various jobs		
		3週	continued		continue		
		4週	Job Satisfaction		Interviews and reports		
		5週	International Trade		International trade and multinational companies		
		6週	Multinational Companies		continue		
		7週	continue		continue		
		8週	continue		continue		
	4thQ	9週	Doing Business in Japan		Business culture and differences between countries		
		10週	Cross cultural study		continue		
		11週	continue		continue		
		12週	Brands and Loyalty		Brand value, slogan and logo		
		13週	Marketing and Advertising		What is marketing and why is it important, ways to advertise and market merchandise		
		14週	Brands and marketing assignment		"Would you buy it?"		
		15週	Presentation				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	産業安全工学総論	
科目基礎情報							
科目番号	0028		科目区分		専門関連 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）		対象学年		専2		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	配布資料等						
担当教員	芥川 一則,原田 正光,大槻 正伸						
到達目標							
①現場での作業によって引き起こされる被害をイメージできリスクマネジメントが行える。 ②システム安全工学（FTA, FMEAなど）を理解し、実践できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	各工業分野で、現場における事故・災害の防止対策および発生時の対応策について具体的に事例を交えて学習する。また、放射能汚染や公害問題などの基本的な事項を理解し、その対策や改善手法の提案などができるようにする。						
授業の進め方・方法	この科目は学修単位科目のため、事前、事後の学習として、定期的に課題を提出させる。定期試験の成績を70%、課題および小テストの成績を30%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。						
注意点	担当者によって、課題提出を指示する。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	概論		自然災害と産業安全		
		2週	事例研究①		災害統計、安全評価、		
		3週	事例研究②		情報に関する安全、情報セキュリティ		
		4週	事例研究③		飛行機事故		
		5週	事例研究④		鉄道事故、輸送関連事故とヒューマンエラー		
		6週	放射線安全①		放射線（1）		
		7週	放射線安全②		放射線（2）		
		8週	放射線安全③		放射線（3）		
	4thQ	9週	放射線安全④		放射線（4）		
		10週	放射線安全⑤		放射線（5）		
		11週	環境安全①		水資源とリスクマネジメント		
		12週	環境安全②		水道とリスクマネジメント		
		13週	環境安全③		公害からの環境保全		
		14週	環境安全④		原子力災害からの環境保全		
		15週	総括		総括		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	科学技術史
科目基礎情報						
科目番号	0029		科目区分	専門関連 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学専攻（ビジネスコミュニケーション学コース）（R4年度から）		対象学年	専2		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	工学系卒論の書き方、別府俊幸・渡辺賢治、コロナ社					
担当教員	笠井 哲					
到達目標						
①近代以降の科学技術の歴史を概観し、その中における科学技術と人間・社会との関わりについて理解することができる。 ②科学技術史における人々の「真理と倫理のディレンマ」を追体験することで、技術者倫理の必要性を認識することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
基礎的能力	西洋近代以降の科学技術の歴史を理解し、自分の言葉で説明できる。		西洋近代以降の科学技術の歴史を理解できる。		西洋近代以降の科学技術の歴史を理解できない。	
専門的能力	授業で学習したことを、自分の言葉でまとめ直し、自分の意見を加えた報告書を提出できる。		授業で学習したことを、自分の言葉でまとめ直し、提出できる。		授業で学習したことを、自分の言葉でまとめ直すことができない。	
汎用的技能	書籍やインターネットにより、必要な情報を適切に収集することができ、科学技術の歴史を追体験することで、技術者倫理の必要性を自覚することができる。		書籍やインターネットにより、必要な情報を適切に収集することができ、科学技術の歴史を追体験することで、技術者倫理の必要性を認識することができる。		書籍やインターネットにより、必要な情報を適切に収集できずに、科学技術の歴史を追体験できずに、技術者倫理の必要性を認識することができない。	
態度・志向性	科学技術の歴史の学習を通して、技術が社会に及ぼす影響を認識し、技術者が社会に負っている責任を自覚している。		科学技術の歴史の学習を通して、技術が社会に及ぼす影響を認識し、技術者が社会に負っている責任を認識している。		科学技術の歴史の学習を通して、技術が社会に及ぼす影響を認識しておらず、技術者が社会に負っている責任も認識していない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	現代社会の姿を深く理解し将来の展望をつかむため、我々の生活を大きく変えてきた西洋近代以降の科学技術の歴史について学習する。 それに基づいて、これからの社会において科学技術の果たす役割について考える。					
授業の進め方・方法	西洋近代の科学技術の黎明であるルネサンスや科学革命から始め、産業革命、二つの世界大戦、資本主義成立を経て、現代社会における科学技術について学習する。 この科目は学修単位科目のため、授業前に課題プリントを配付し調べさせ、授業後にプリントに授業内容をまとめたものを提出させる。 また、ビデオ教材も使用し、視聴後に意見をまとめてもらう。さらに、トピックを選び、グループディスカッションも実施する。 定期試験（期末のみ）を実施し、自学自習課題と総合的に評価し、60点以上を合格とする。 ただし、再試験の受験は定められた期限内に課題を提出した者のみに認める。					
注意点	科学技術の歴史を「覚える」のではなく、「考える」という姿勢で受講してもらいたい。 毎回テーマを与え、自学自習の時間にレポートを作成させ提出させるので、授業をしっかりと理解すること。 理解できない点があれば、その都度積極的に質問すること。					
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	科学技術史とは何か		科学技術の歴史を学ぶ意義について理解できる。	
		2週	ルネサンスと科学技術		ルネサンスの科学技術への関与について理解できる。	
		3週	科学革命の構造		科学革命と近代科学の誕生について理解できる。	
		4週	近代の技術的知性		ベーコンとデカルトの科学技術思想について理解できる。	
		5週	産業革命と科学技術		産業革命の技術的基盤について理解できる。	
		6週	産業革命の発展		産業革命と科学技術の展開について理解できる。	
		7週	工学と技術教育の成立		「科学の制度化」と工学部の誕生について理解できる。	
		8週	世界大戦と科学技術		化学兵器と原子爆弾の開発について理解できる。	
	2ndQ	9週	資本主義と科学技術		アメリカにおける「科学の産業化」について理解できる。	
		10週	現代社会と科学技術（1）		技術革新がもたらしたものについて理解できる。	
		11週	現代社会と科学技術（2）		産業の発達に伴う公害や環境破壊について考え、SDGsについて理解できる。	
		12週	現代社会と科学技術（3）		バイオテクノロジーと遺伝子組み換えについて理解できる。	
		13週	現代社会と科学技術（4）		コンピュータの発達と社会の変化について理解できる。	
		14週	現代社会と科学技術（5）		原子力の安全性、科学技術の光と影について理解できる。	

		15週	まとめ		1 4 週までを踏まえ、SDGsの達成を目指す21世紀の科学技術について展望できる。	
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル 授業週
評価割合						
	試験		課題レポート		自学自習課題	合計
総合評価割合		60	20		20	100
基礎的能力		30	0		0	30
専門的能力		30	10		0	40
汎用的技能		0	10		10	20
態度・志向性		0	0		10	10